

パソコン部、全国へ



八月六日にパソコン部が「第三十五回全

国パソコン技能競技大会」に出場しました。競技は、日本語ワープロ競技、情報処理技能競技、日本語スピード競技、英語スピード技能競技の四部門に分かれていて、本校からは、文章入力スピード認定（日本語）一級以上という参加資格を満たす二年生工藤さん、一年山下山田さんの二名が日本語スピード競技にエントリーし、下山田さんが佳良賞に選ばれました。日本語スピード競技とは、活字の文章を見ながら入力純字数（どれだけ文字を打てるか）を競うとのこと。毎月産みの苦しみのこの新聞の取材・編集丸投げってのには対応してないらしいです。

理科研究部、海へ



私は、海というと映画「海の若大将」（加

山雄三）、「海から来た流れ者」（小林旭）のイメージではなくて、「彼女が水着に着替えたら」（原田知世）、「波の数だけ抱きしめて」（中山美穂）、「稲村ジェーン」（加勢大周）、「あの

夏、いちばん静かな海。」（真木蔵人）が真っ先に頭に浮かぶほうですが、本校理科研究部（以下理研部）はそんな軟弱校長とは違って、硬派！



理研部は、磐城高校、湯本高校と一緒に「高校生が取り組む地球規模の環境問題プロジェクト」に参加しており、三校の生徒が主体となっていていわきの現状を調査し、香川県（予定）での実態調査との違いをまとめ、市民のみなさんに報告会を行い、環境問題が身近な課題であり、一人一人の生活と密接に関連していること知ってもらうために活動しています。



「兄弟船」（鳥羽一郎）並に硬派ですね。

七月二十四日、この日はいわき市漁業協同組合からチャーターした調査船（漁船）に乗って、勿来の沖合にてフィードワーク。海底の海洋汚染に関わるゴミを実際に底引き網で引き上げ、実地調査をしました。海に出て、網を引く姿、とても文化部とは思えません。夏休み中には「池の水全部抜く」にも挑戦していただきました。

サッカー部、二回戦へ

八月二十二日、鏡石町にある鳥見山多目的広場を会場として、第百回全国高等学校サッカー選手権大会福島県大会の初戦がありました。

本校サッカー部は以前の本紙記事で紹介したように、本校のみの単独チームを作ることができません。

今回は、平商業高校、いわき秀英高校、そして本校の三校で合同チームを作り参加しました。



当日、合同チームは総勢十一名。サッカーは、ご存じのように十一人です。誰一人交代することができないぎりぎりの人数です。加えて、コロナ禍により、初戦に向けた合同練習もままならず、写真のように、試合開始直前まで、選手同士がポジションや作戦を確認しています。

初戦の相手は単独チームの松韻学園福島高等学校です。前半、合同チームが一点を先取り、良い流れでの後半。本校一年生伏見選手が追加点を入れ、これは勝てると思ったのもつかの間、二点となった気の緩みについて相手が一点を返し、その後はまさに一点を巡る攻防が続きました。

残り十分ともなると、コロナの練習不足からか、足をつる選手が続出。交代要員はいませんから、フィールド外で治して戦線復帰を繰り返し、辛くも逃げ切りました。

合同チームは善戦しても、勝てないという前評判を跳ね返し、二回戦進出です。

試合中の写真？ 選手の活躍に興奮して撮影忘れしました。そのくらい快挙なんです。

二学期始まりました

八月二十五日より二学期が始まりました。写真は勿来駅での通学風景です。学校に通うのが楽しくそうですね。ごくごく普通の写真、と見えますが、一つだけ普通ではないところがあります。



写真の時計部分をアップにしてみると、九時を過ぎてしまっています。



本校の始業は八時半ですから、大幅な遅刻。「おい、校長、のんきに写真なんか撮っていないで、遅刻生徒を指導しなさい」という声も聞こえてきそうな一枚ですが、のんきに写真でいいんです。

本校は、コロナ感染防止として、電車の棲み分けを周辺高校と調整し、時差通学（九時半始業）を九月十日まで実施しています。写真の生徒も、駅前待つかスクールバスに乗り込み、余裕を持って登校しました。

いつもより遅い電車に乗っている本校生は、決して寝坊やサボりではありませんので、あしからず。（ただし、九月十日まで）